

仮置場設置訓練の結果報告

<目的>

- 道内の市町村及び一部事務組合（広域連合を含む）及び廃棄物処理関係機関（民間事業者等）の職員を対象とし、災害時に市町村職員等が迅速な対応ができるように、仮置場の設置をするとともに、受付や搬入等の役割を入れ替えながら、仮置場の運営の実地訓練を実施する。

<実施内容>

- 仮置場設置に係る事前勉強会（WEB）
- 仮置場設置訓練

<参加者（設置訓練）>

- 自治体職員 帯広会場：36名、日高会場：27名
（北海道庁・（総合）振興局、市町村、一部事務組合、広域連合）
- 民間事業者 帯広会場：5名、日高会場：1名



帯広会場



日高会場

1

○ 開催概要

会場	日時	内容	参加者
帯広会場	10月10日（木） 10時～12時	事前勉強会（WEB開催） 事後視聴①10月11日（金）10時～12時 事後視聴②10月15日（木）13時～15時 事後視聴時も質疑対応	41名
	10月17日（金） 10時～16時	仮置場設置訓練 午前：レイアウト検討 午後：仮置場の設置 実施訓練 振り返り	
日高会場	10月22日（火） 10時～12時	事前勉強会（WEB開催） 事後視聴①10月24日（木）10時～12時 事後視聴②10月29日（火）13時～15時 事後視聴時も質疑対応	28名
	10月31日（木） 10時～16時	仮置場設置訓練 午前：レイアウト検討 午後：仮置場の設置 実施訓練 振り返り	

※事前勉強会の受講は訓練参加者必須としたが、訓練参加者以外も受講可能とした。

2

○ 事前勉強会内容(帯広会場)

●事前勉強会：事前学習の項目

1. 災害種別と災害廃棄物の特徴
2. 初動対応の重要性
3. 仮置場の種別とその役割
4. 仮置場の設置について
5. 近年の災害における仮置場での片付けごみの対応例
6. 災害廃棄物の初動対応に関するまとめ

●帯広会場 事前勉強：豪雨による水害・土砂災害を想定した内容

帯広)豪雨による水害・土砂災害での災害廃棄物の特徴

片付けごみ等 発災直後から問合せ、発生のピークは1か月程度の間に、**混合廃棄物**が集まる

- ・主に、住民が自宅内にある被災したものを片付ける際に排出される廃棄物。
- ・床上、床下浸水による**片付けごみが多い**。ごみは水分や泥等を含み、腐敗しやすい。
- ・床下の泥だし・消毒乾燥のため、屋内の濡れたものを取り出す必要があり、その際に、排出された家財などが**混合状態となりやすい**。(被災家屋からの排出時から分別が有効)
- ・ゴミ出しは地震時より早くなるため早期の対応が必要

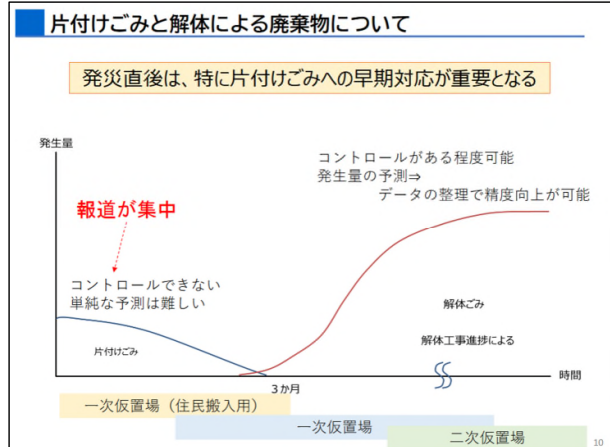
被災現場 → **仮置場**

公費家屋解体 **災害査定と並行して発生し、分別廃棄物**が集まる

- ・被災家屋の解体等に伴い排出される廃棄物。(水害時は、建物解体は比較的少ない。)
- ・【分別解体】とする。木くず、がれき類などが混在する恐れのあるいわゆる【ミチ解体】は行わない。
- ・発生量は、片付けごみの3～5倍(重量比)

被災現場 → **仮置場**

家屋解体(現地分別解体) → 仮置場では分別されて集積



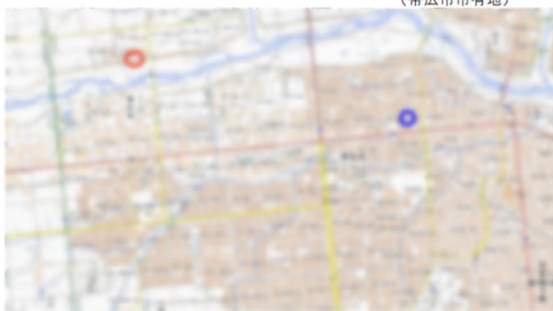
3

○ 実地訓練概要(帯広会場)

●帯広会場

訓練場所

実地訓練場所
屋内訓練場所：[redacted] コミュニティセンター 大集会所)
屋外訓練場所：[redacted] (帯広市市有地)



出典：地理院地図を加工して作成



← 緊急搬入経路 職員 進入禁止箇所

訓練のスケジュール

※訓練前・事前勉強会【豪雨災害】

	時間	内容	参照
10月17日	10:00~10:30	受付	—
	10:30~10:35 (5分)	開会	—
	10:35~10:40 (5分)	スケジュール、実施方法説明	—
(屋内)レイアウト検討		レイアウト検討	p.7~8
		設置するレイアウトの決定	—
	11:15~11:25 (10分)	必要資機材の確認	p.9
	11:25~11:30 (5分)	連絡事項	—
	11:30~12:30 (60分)	昼休憩	—
	12:30~12:35 (5分)	仮置場の設置に関する実施方法説明	—
(屋外)仮置場の設置		仮置場の設置	p.10
	13:05~13:10 (5分)	実地訓練に関する実施方法説明	—
(屋外)実地訓練		実地訓練 [10分×6セット] [入れ替え時間で休憩]	p.11~12
	14:45~15:05 (20分)	休憩	—
(屋外)振り返り		振り返り	p.13
		振り返り発表	—
	15:40~15:45 (5分)	閉会	—

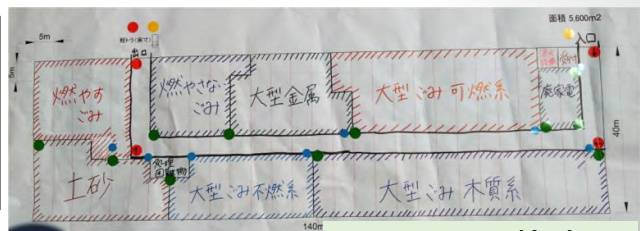
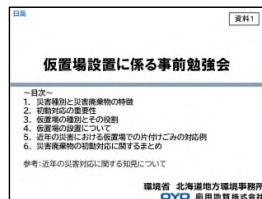
■：屋内訓練、■：屋外訓練

4

○ 実地訓練概要(帯広会場)

● 帯広会場

※訓練前に事前勉強会



レイアウト検討

(屋内)レイアウト検討



(屋外)仮置場の設置



(屋外)実地訓練



(屋外)振り返り



訓練の感想・気づき	平時に備えておくべきこと
【レイアウト】 ・大型ごみは近くの方が下ろしやすいような気がする ・最終的な形だけでなく、序盤、中盤、終盤の形で経過を意図して作成するべきと思った ・曲がり角で下ろさせない方が安全 【資機材】 ・カラーコーンの色が何色かあれば導線などが分かりやすい ・コーンにかけられるバーもあった方が誘導しやすいかも 【仮置場の設置】 ・これは絶対やってはいけないという禁止事項をより知りたくなった ・長期に渡って使える耐久性の高いものが必要 ・看板は車道から見やすい向きにセットする ・看板は進行方向に見やすい方に向けるのがよい 【受付対応】 ・受付時の廃棄物の種類の判断が難しかった ・混み合うので、どこに何をあずかるかは次の係にまかせろ ・注意事項を待っている車に書いて、説明を省略したい ・待ち時間に、連絡事項を書いた貼紙を見れると良い 【誘導対応】 ・次に何を捨てるかわからず、進めるか止めるか悩んだ ・入退場の誘導は、実際には車の往来があることに留意すべき 【受入補助対応】 ・自治体によって分別が違っているので、大型（金属）などの分別ごみにしたら良いと思った ・荷下ろしで車に物をぶつけて破損した時の対応を決めておくよと思った ・種類ごとに1人以上必要 【その他】 ・トイレがもう少し近いと良い ・追い越してできない車幅の場合は、誘導と搬入補助は兼務でもいいのではなか ・立ち止まらずに疲れるのでイスがあるとよい ・震災直後、即時対応するためにマニュアルの整備が重要と感じた	・平時からレイアウトを決めておく開設がスムーズ ・候補地があるのであれば、地域に合わせたレイアウトを想定しておく ・置き場看板の用意 ・被災を考慮して、2ヶ所以上に保管しておくべき ・普段出ないような特別なごみや、事業系ごみを想定しておく ・広くて平らで出入りしやすい場所の選定 ・分別マニュアルや分別の例を理解すること ・分別の基準をつつておく（普段対応しない産業系は特に） ・自治体によって廃棄物の種類が異なるので、種類毎のリストを用意しておく ・夜間の危険性。受働事故防止の心がけ ・ハンドサイン（進め・止まれ・進行方向など）を知っておく ・廃棄物担当課以外でも、分別の仕方を覚えておくべき ・受付の人と同じ理解で、分別の説明ができるようにマニュアルが必要 ・外国人に対応できる職員を確認しておく ・実際に処分場で処分する際には、何種類に分別するのが良いかの検証はしてもいいかも

振り返り

○ 事前勉強会内容(日高会場)

● 事前勉強会：事前学習の項目（帯広と共通）

1. 災害種別と災害廃棄物の特徴
2. 初動対応の重要性
3. 仮置場の種別とその役割
4. 仮置場の設置について
5. 近年の災害における仮置場での片付けごみの対応例
6. 災害廃棄物の初動対応に関するまとめ

● 日高会場 事前勉強：津波を伴う地震災害を想定した内容

日高町 津波を伴う地震災害での災害廃棄物の特徴

片付けごみ等 発災直後は余震による避難が継続。片付けごみは、地震・津波被害の規模により発生時期が異なる

主に、住民が自宅内にある被災したものを片付ける際に排出される廃棄物。
 ・片付けごみは、海水(津波)を被った割れ物・家具家電、畳、マットレス、廃木等となる。
 ・津波による浸水があったものの、大きな倒壊には至らなかった地域は、津波を被った家財などの廃棄物。東日本大震災では、水産物、廃棄物となる場合も

被災現場 → **仮置場**

津波を伴う地震災害では発生時より混合状態となる場合も

公費家屋解体 災害査定と並行して発生し、分別廃棄物が集まる

被災家屋の解体に伴う廃棄物/津波により海水を被った解体家屋・家財が混ざった状態
 ・地震による災害時は、全壊等の建物撤去による瓦・コンクリートブロック等不燃物が多い
 ・【分別解体】とする。木くず、がれき類などが混在する恐れのある【ミチ解体】は行わない。

被災現場 → **仮置場**

家屋解体(現地分別解体) → 仮置場では分別されて集積

片付けごみと解体による廃棄物について

被災状況	発生廃棄物	津波を伴う地震災害
地震による倒壊建物が多数発生している	地震廃棄物(家財ごみ、家財ごみ)、避難ごみ	津波を伴う地震災害では発生時より混合状態となる場合も
倒壊建物はあまり見られないが避難者が出ている	避難ごみ	
通常の収集システムが機能していない	避難ごみ	
市街地において浸水による被害がみられている	津波廃棄物(津波浸水ごみ)、水産物廃棄物(水産物ごみ)、自動車、避難ごみ	
津波等による倒壊家屋、流出家財による被害が生じている	津波/水産物廃棄物(津波/水産物浸水ごみ、自動車、船舶、草木類)	
津波により市街地に津波増積物が多く堆積している	津波廃棄物(津波増積物、津波浸水ごみ、津波浸水ごみ、自動車、家財)	
津波地域において津波増積による被害が生じている	津波廃棄物(自動車、船舶、水産物、大気物、草木類、津波増積物/避難ごみ)	
農地において津波等による被害が生じている	津波廃棄物(津波増積物、自動車、草木類、船舶、津波浸水ごみ)	
火災現場による被害が生じている	地震廃棄物、津波廃棄物、水産物廃棄物の混在がみられる	

津波を伴う地震災害の場合
 ・地震による被害の状況
 ・津波被害の状況により、発生する時間に幅が生じることが予測される

出典：災害廃棄物分別・処理実務マニュアル(H24.5)p.49より作成

○ 実地訓練概要(日高会場)

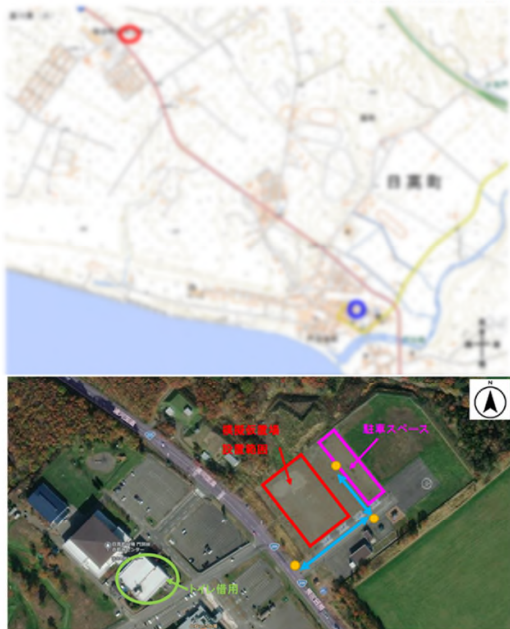
●日高会場

訓練場所

実地訓練場所

屋内訓練場所: [redacted] 公民館 講堂)

屋外訓練場所: [redacted] 防災広場)



訓練のスケジュール

※訓練前・事前勉強会【地震災害】

	時間	内容	参照
10月31日 (木)	10:00~10:30	受付	—
	10:30~10:35 (5分)	開会	—
	10:35~10:40 (5分)	スケジュール、実施方法説明	—
(屋内)レイアウト検討		レイアウト検討	p.7~8
		設置するレイアウトの決定	—
	11:25~11:35 (10分)	必要資機材の確認	p.9
	11:35~11:40 (5分)	連絡事項	—
	11:40~12:40 (60分)	屋休憩	—
	12:40~12:45 (5分)	仮置場の設置に関する 実施方法説明	—
(屋外)仮置場の設置		仮置場の設置	p.10
	13:15~13:20 (5分)	実地訓練に関する 実施方法説明	—
(屋外)実地訓練		実地訓練 [10分×5セット] [入れ替え時間で休憩]	p.11~12
	14:50~15:05 (15分)	休憩	—
(屋外)振り返り		振り返り	p.13
	15:25~15:40 (15分)	振り返り発表	—
	15:40~15:45 (5分)	閉会	—

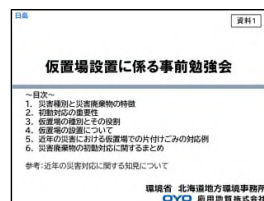
■: 屋内訓練、■: 屋外訓練

7

○ 実地訓練概要(日高会場)

●日高会場

※訓練前に事前勉強会



(屋内)レイアウト検討



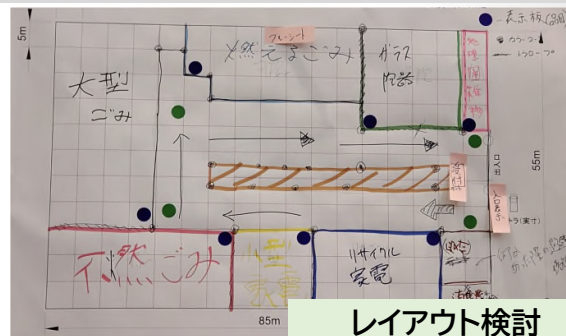
(屋外)仮置場の設置



(屋外)実地訓練



(屋外)振り返り



レイアウト検討

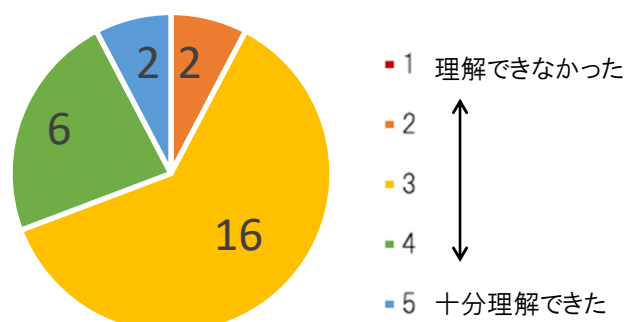
訓練の感想・気づき	平時に備えておくべきこと
【レイアウト】 ・広さ ・センターがデッドSP ・出口優先の構造 ・搬入路と搬出路	・業者との連携
【資機材】 ・トランシーバー、拡声器 ・広さにもよるが、重機が入りやすいイメージができるか？ ・看板の見えるさ ・看板は大きい方が良い。広い所だと目立たない	・重機・鉄板とか資材の確保
【仮置場の設置】 ・そもそもの場所ってどこ？ ・冬の対応 ・リーダー、役割分担等が不十分、不鮮明	・冬の場所→アスファルト？
【受付対応】 ・受付時の指示（分別）が末端まで行き届いていない ・受付簿に筆番を記入 ・図面をラミネートした物を用意したらわかりやすい	・対応班と訓練
【誘導対応】 ・受付時の指示（分別）が末端まで行き届いていない ・適切な分別を教えてあげる ☆	・対応班と訓練
【受入補助対応】 ・分別の違い ・適切な分別を教えてあげる ・受付は搬入者の確認と注意の説明だけで、受入補助で指導を強化した方がいい ・受付との連携がきちんとできていないと受付できないごみの搬入がある	
【その他】 ・人数がこんなにいない現実 ・混雑を想定して ・練習としては良いが...	

振り返り

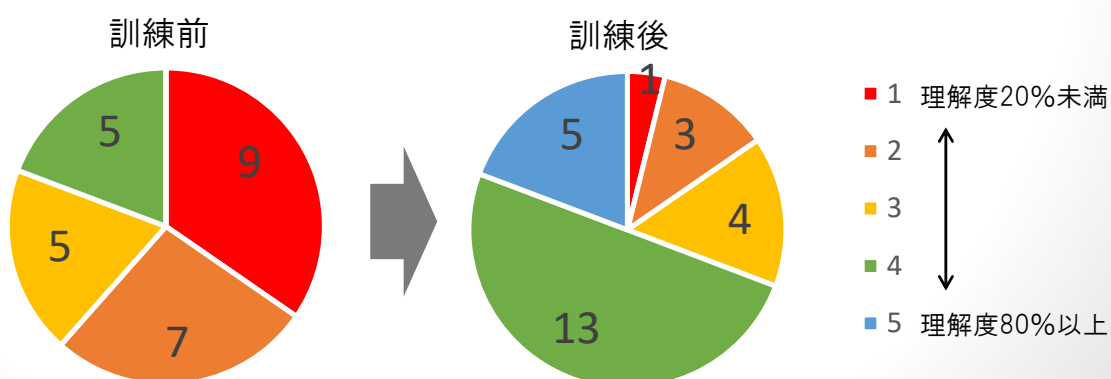
8

○実施後アンケート(帯広会場)

Q 1. 本訓練を通じて、仮置場の設置・運営の流れを理解できましたか。



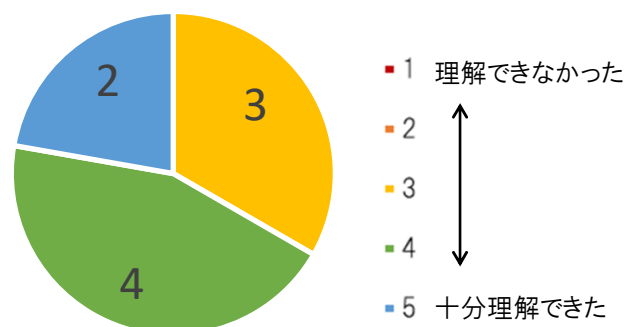
Q 2. 訓練の前後で、御自身の理解度はどのように変化しましたか。訓練前後の理解度について数字でご回答ください。



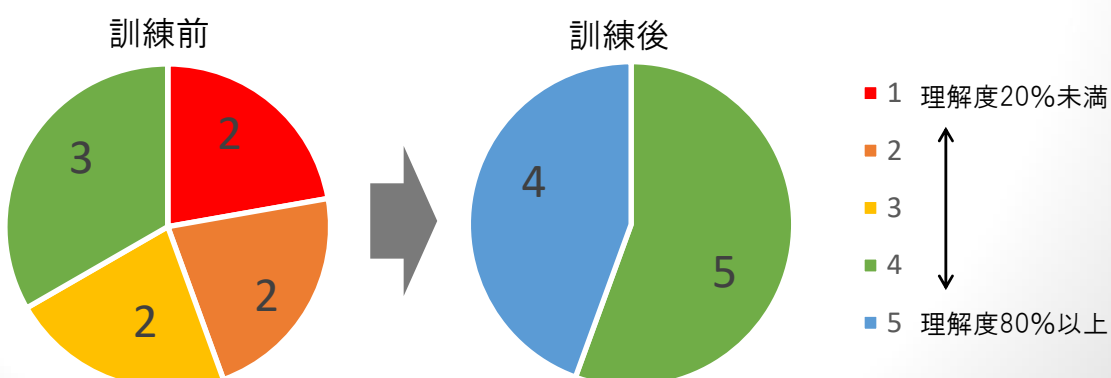
9

○実施後アンケート(日高会場)

Q 1. 本訓練を通じて、仮置場の設置・運営の流れを理解できましたか。



Q 2. 訓練の前後で、御自身の理解度はどのように変化しましたか。訓練前後の理解度について数字でご回答ください。



10

○ 実施後アンケート・意見結果まとめ

● アンケート内容（１）

項目		意見内容
(1) 事前勉強会	重要な内容の理解	✓ 初動対応の重要性や仮置き場の基本的な考え方、実際の事例を学習。 ✓ 災害廃棄物対応の知識や過去の事例からの学習の重要性。 ✓ 基本的事項を事前に学習することで、円滑な実地訓練の参加が可能に。
	情報把握・情報共有の重要性	✓ 現地の状況を把握する情報が重要、具体例や良い/悪い事例が理解を助けた。 ✓ 連携機関や部署間での情報共有が重要。
(2) 仮置場レイアウトの検討	時間の確保	✓ 訓練時にレイアウト作成に十分な時間を確保するべき。
	配置の重要性	✓ 可燃物と不燃物の配置や交通の流れを考慮する必要がある、火災リスク ✓ 廃棄物の種類に応じた配置や、動線の考慮が必要
	意見交換の重要性	✓ 意見を出し合う時間を設けることで、多様な意見を共有できる。 ✓ 外回りのレイアウトや他グループのアイデアから学ぶ重要性 ✓ 各市町村における最適なレイアウトの知識を共有する必要がある
(3) 実施訓練の資機材について	資機材の選定基準	✓ 準備資機材の選定に疑問があり、経験に基づく資材準備が必要
	表示や仕切りの重要性	✓ カラーコーンや看板等に対し視認性を高める必要がある。
	事前確認の必要性	✓ 資機材の保管場所や代用可能な物に関する平常時の準備 ✓ 資機材の不足や劣化を事前に確認することが重要。
	連携とコミュニケーション	✓ 多くの職員の参加が重要であり、資機材の扱いへの理解が必要 ✓ トランシーバーなどを用いた意思疎通の重要性。

11

○ 実施後アンケート・意見結果まとめ

● アンケート内容（２）

項目		意見内容
(4) 実施訓練の受付係について	流れの確認	✓ 受付の流れや必要な情報の確認が不十分であった
	スムーズな受け入れ	✓ 受け入れのスムーズさが全体の混雑解消に重要。役割分担の明確化が求められている。 ✓ 受け入れのスピード向上のため、複数の受付を設置
	搬入者への案内	✓ 搬入物の確認や適切な案内の準備が必要
	廃棄物の判断能力	✓ 受付係の知識が重要、適切な判断をするための教育が必要
(5) 実施訓練の誘導係・受け入れ補助について	人的資源の不足	✓ 誘導係を用意する余裕がないが、必要性が高い。
	周囲の把握の重要性	✓ 常に周囲の状況を把握し、的確な誘導を心掛ける必要がある。
	連携の必要性	✓ 誘導係と受入補助係の連携が重要であり、役割分担の明確化が必要 ✓ 誘導係が他の係と連携して情報共有することが重要
	事故防止のための配慮	✓ 実際の現場での混雑を考慮し、警備誘導の必要性が指摘
	正確な判断の共有	✓ 廃棄物の受け入れに関する知識を全員で共有する必要があるとの意見が共通している。
(6) 振り返り・気づいたこと	役割分担の重要性	✓ 役割分担を事前に決めておくことで、スムーズな運営が可能
	災害時の不測の事態への準備	✓ 実際の状況や不測の事態に対して柔軟な対応が必要
	地域の状況を考慮すること	✓ 地域ごとの特性を考慮した訓練の重要性
	ディスカッションの効果	✓ ディスカッションを通じて新たな視点を得る。
	実地訓練の重要性	✓ 訓練を通じて流れや物品の過不足を確認することが重要。

12

○ 実施後アンケート・意見結果まとめ

●アンケート内容（３）

項目		意見内容
(7)ご意見・ご要望	準備不足の指摘	✓ 訓練の準備が不十分であったとの意見が多く、事務局の役割が不明瞭であったという指摘
	次回の開催希望	✓ 次回の訓練に対する期待や改善点があり、より実践的な内容を希望する声が多い。
	フィードバックの重要性	✓ 訓練後のフィードバックや評価により、自分の理解度を確認できるとの意見。
	仮置場の分類方法	✓ 仮置場の配置や分類方法に関する疑問、一定のルールを確認する必要があるとの意見
	ボランティアの活用	✓ 災害時にボランティアの活用が必要ではとの疑問。
	資料送付の工夫	✓ 資料送付に関する改善点が指摘されている。

●全体：地域特性に基づくもの、成功・失敗及び経験事例に基づく学習の要望、意見交換の有効活用が要望